

## 冬木<sup>ふゆぎ</sup>A、B貝塚<sup>かいづか</sup>

冬木A、B貝塚は、利根川水系に属し、支流権現堂川<sup>ごんげんどう</sup>の東岸の微高台地上<sup>びこう</sup>に位置します。縄文前期から後期前葉にかけてのものともみられます。

日本住宅公団の住宅造成事業にともない昭和五十四年五月から十二月まで、茨城県教育財団本部に調査を委託して、発掘調査が実施されました。

検出された遺構は、<sup>たてあな</sup>竪穴住居四十基、土坑二百七十基です。また、人骨十八体、貝輪、完形の土器三十個、<sup>どぐう</sup>土偶四个体、石器、石製品、獣骨、魚骨が多数出土しました。また、貝輪は小形の土器に入っただままの状態<sup>じょうたい</sup>で二十数個出土しました。

人骨は、茨城県立歴史館、東京大学、五霞町教育委員会に保存されています。この貝塚に関する人骨以外の出土品は、五霞町教育委員会に保存されています。